

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703022
法人名	医療法人 権頭クリニック
事業所名	グループホームもやい ユニット名 2階・3階
所在地	福岡県北九州市八幡西区竹末1丁目10-15
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年10月17日	評価結果確定日	平成27年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームもやいは、外を眺めれば公園がすぐ目の前に広がり、小学校、神社、市民センター、スーパーが近くにあり地域交流に恵まれた環境にあります。日々の生活においてはお一人おひとりの要望が実現出来る様に入居者様中心のケアに繋がる様に本人様、ご家族様、地域の方々、主治医、職員などが密に連携を行い日々より良いケアになれる様に取り組んでおります。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

関連する法人とともに地域に根付いた活動を行っており、多彩なメンバー構成で開催される運営推進会議や地域の様々な行事への参加や協力、活発な情報発信等、積極的に地域との連携や交流の機会を広げている。また、協力医療機関との密な連携を図り、日々の健康管理や医療ニーズへの対応は、本人、家族の安心感となっている。事業所独自の取り組みとして、言葉や仕草、行動等から思いや意向をひもとき、個別のより良い暮らしの継続に向けた課題や潜在するニーズの把握に努め、職員目線ではなく、本人本位に基づく実践を大切にしている。また、日課としての散歩(時には愛犬とともに)や食材の買い物、畑作り等、日常の中での外出支援にも力を入れている。個別支援の追求に向けて固定観念にとらわれず、風通しの良い職場環境はアイデアも豊富である。入居者の方々とはもとより、職員の個性の発揮を大切にしたい暮らしの場所は、喜怒哀楽や意思の表出が豊かであり、自然体での関わりが印象に残る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしくあるがままに」の理念の基に職員は理念を共有し名札の裏にも理念を貼り付け常に意識しながら実践している。	地域密着型サービスとしての独自の理念を掲げ、新規採用時の研修では理念の共有を重視している。一日一回は理念を意識できるよう各自が携行し、ミーティングにおいても振り返りの機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	竹末市民センターでのイベントには随時参加し、公園清掃、実習生やボランティアの受け入れ等地域の方と交流を行っている。また、山笠のしぶき作り、龍王神社でのお茶会の手伝いや参加、商店街の収穫祭への出店も行っている。	町内会に加入し、入居者とともに回覧板の受け渡しを行っている。また、公民館には事業所通信を掲示し、相互に情報共有を図っている。地域の伝統行事や催事に参加したり、ふれあい昼食会や文化祭に展示参加する等、地域との交流機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	どんど焼き、盆踊り、夏越祭、竹末祇園見学への参加等により入居者様とふれあって頂き地域の方が認知症の方の理解に繋がる様に取り組んでいる。また、認知症に対する理解を深めていただきたい為、オリジナルの演劇を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの近況報告を行い、市民センター館長や町内会長からの助言や情報を頂きサービスの質の向上に繋げている。	関連法人の地域密着型事業所が合同で運営推進会議を開催し、自治会、民生委員、市民センター、小学校校長、まちづくり協議会、神社総代、消防署、特別支援学校、認知症ネットワーク、地域包括支援センター等、地域の様々な関係者が一堂に会し、議事録にはそれぞれの方のコメントが記載されている。運営状況の報告や地域情報の共有、また、地域の課題についても意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回介護サービス相談員が入居者様との関わり職員へのアドバイスを頂いている。また、市の研修は職員の経験やレベルに合った職員が参加している。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員や市民センター館長の出席を得ている。また、月に1回、介護サービス相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しい知識を学ぶ為に職員は内部研修や外部研修に参加している。そこで学んだ事をミーティングにて発表し各職員へフィードバックし情報を共有している。	個別の思いや心情の変化の把握に努め、行動の理由、原因等をひもときながら、言葉使いや対応についてもロールプレイングを行い、安心して過ごせる環境作りに配慮している。研修実施や日常の中で振り返りを行い、職員の意識を高めている。日中の施錠は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修を行っている。日頃から入居者様の発するサインを見逃さないことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について外部研修に参加しており、学んで来た知識をミーティングの際に発表し職員は制度についての知識を深めようと努めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、玄関に資料を常備し情報提供を行っている。法人内の事例の共有や専門職の連携、また、職員の学ぶ機会の確保に努めながら、必要時には活用に向けた支援が行えるよう体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書を一一つ説明し、入居者様、ご家族様に理解納得して頂いている。不明な点があればわかりやすい様にその都度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段のご家族様の面会時や電話連絡時にコミュニケーションを図り意見や要望の情報収集に努めている。月1回介護サービス相談員に入居者様は相談されている。直接施設長との面談も可能である。	1年に1回、法人合同で家族会を開催しており、その他にも食事会を実施する等、家族とのコミュニケーションを深めている。また、月に1回、介護サービス相談員を受け入れている。日光浴や換気の要望等、実際に家族意見が反映されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングを行い情報交換を行っている。意見や提案しやすい環境作りを行っている。また、代表者による個人面談の場を設けて反映出来ている。	月例にミーティングには法人本部からの出席もあり、職員の積極的な意見を求め、備品の整備等、職員意見が反映されている。参加できない場合にも資料をもとに説明し、周知を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は必要に応じて一人一人の職員と面談を行い要望や悩みを相談出来る様いつも風通しのよい職場作りに努めている。日頃から職員とのコミュニケーションを密に行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、必要な人材であれば採用している。また、職員の能力に応じた研修への参加している。職員が能力を発揮出来る様に仕事を役割分担している。	法人としての募集となり、採用にあたり、年齢や性別による排除は行われていない。外部研修参加に向けたサポートや保育所の設置、産休の取得や復帰に向けた配慮等、個々のスキルアップを支援し、働きやすい職場環境の整備に努めている。関連法人の地域密着型事業所が持ちまわりで内部研修を実施し、各職員が担当することで、より効果的な資質の向上につなげている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や内部研修に取り込んでいる。研修や勉強会を通して人権に対する意識向上を図るとともに自己学習を促し取り組んでいる。	法人としての委員会活動や合同研修を通して、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験やレベルに応じた外部、内部研修に参加している。教育が出来るのにふさわしい職員を配置し、知識や技術、考え方の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と月に一度市内の4法人で作るユニットin北九州にて勉強会やネットワーク作りを行っている。他職員同士の情報交換、相互訪問の場がありサービスの質を向上出来る様に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談にて御本人様と不安に思っている事や要望等あれば傾聴し入居後も安心して生活を送って頂けるに密にコミュニケーションを図り信頼関係が築ける様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談に来られて入居に至るまで御本人様と御家族様が困っている事や不安な事を真摯に受け止め、入居後も要望等があれば傾聴し信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談に来られた際は、相談内容に応じて事業所内の可能なサービスを説明し御本人様にあったサービスを提供出来る様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生を重ねられてきた先輩として経験や助言をお聞きしたりして日頃の生活の中で学んだり助け合い関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が面会に来られた際や電話での連絡にて近況報告を行い御本人様の様子を知って頂いている。職員は御家族様の協力の元、本人様を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来園・面会が出来る環境になっており、馴染みのある御友人が来られたり馴染みのある場所に行かれたりして、関係が途切れな様に支援している。	家族や知人の来訪する機会が多く、お孫さんが食事介助に足繁く訪れている方もおられる。馴染みの店での食事やカラオケの利用、神父さんの定期的な来訪を受けている方等、個別の関係性の継続に向けた支援が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者様が孤立する様な状況に陥る場合は職員 が間に入って入居者様同士が交流しお互い に支えられる様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去された際はお見舞いを行った り、外部で御家族様とお会いした際は経過を 伺ったり、必要に応じて相談や支援に努めてい る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者様とのなげない会話の中から思いや 意向の把握に努めている。困難な方には御家 族様が面会に来られた際や担当者会議の際 に情報収集を行い本人本位の目線での暮らし に活かしている。	買い物や外出に関する個別支援計画書、及び報告書 が作成されており、個別の意向に基づいた支援が行 われ、記録の内容も充実している。現在、センター方 式の導入に取り組んでおり、情報の集約や気づきの 共有、新たな視点の確保に活かしながら、思いや意 向、潜在するニーズの把握に結び付けていく意向で ある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	生活歴や馴染みの暮らし方はご本人との会話 やご家族様が面会に来られた際に情報収集を 行っている。ご本人との会話の中から知り得た 新しい情報は介護記録の記載し職員は情報共 有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方はその人らしくあるがままにの 理念の元、尊重している。職員は日々御本人 が出来る事と出来ない事を見極めて現状の把 握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	御本人、御家族の御希望や御要望をお聞き し、医療面からは主治医の意見を頂き、職員か らの御本人に対する意見を擦り合わせて担当 者会議を通して介護計画の作成をしている。	本人、家族の参加する担当者会議を開催し、精神面 へのアプローチも含め、個別、具体的な介護計画が 作成されている。主治医との連絡票にて意見を頂き、 毎月のモニタリングやカンファレンスを通じて、現状の 確認と見直しの必要性について検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入している。日々の様 子、ケアの実践、気付いた点、ご本人の表情や 言葉などを記入している。また、月に一度のフ ロアミーティングにて意見を出し合い課題を見 つけて、よりよいケアプランになる様に努めて いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望される方には系列の行事に参加したり、その日その日に散歩、買い物、ドライブ等を要望される方には柔軟に対応し外出支援などを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターでのふれあい昼食会や行事への参加、地域への清掃活動の参加、買い物へ行きたい方には近隣のコンビニなどの支援を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の納得が得られた母体となる医療法人がかかりつけ医として24時間相談出来る体制がある。他科受診の際には、ご家族と職員が連携している。複数の医療機関との連携や適切医療を受けよう支援している。	これまでのかかりつけ医や専門医については、家族との連携により受診を支援している。また、協力医療機関との密な連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。夜勤も含め、看護職員2名の配置があり、日々の健康管理や早期対応につなげている。医師の指示や受診結果については、周知ノートにて職員間での共有を徹底している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態などについて、日中はすぐに相談出来る看護職員が在籍しており介護職員は密に報告、連絡、相談を行い、医師との連絡を密に行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時よりご本人へ細めに面会へ行き病院関係者へ情報収集を行っている。ご家族と早期に退院出来る様に相談を行いいつでも退院出来る様な体制を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けたアンケートを3ヶ月に1回行っている。ご家族様、ご本人様の意向を確認している。職員は看取りに関する勉強会を毎月行っており看取りに関する情報を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居の際に指針をもとに説明し、意向を確認している。また、担当者会議の際等に、その都度意向を確認している。毎月のミーティングの中で、終末期ケアに関する意識や理解を深めるとともに、家族や医師との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにおいて入居者様の夜間急変時や事故発生時などのシュミレーションを行い、実践力を身に付けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。消防車や防火設備の業者の協力や近隣の方も参加して頂き協力体制を築いている。	年2回、時間帯や出火場所、その他の災害を想定し、避難訓練を実施している。訓練には地域からの参加もあり、災害時には近隣の同法人事業所より応援が駆け付ける体制にある。飲料水や非常食、持ち出し品等が整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生を重ねられた先輩として誇りやプライバシーを損ねない様に配慮している。職員間でロールプレイングを行い言葉遣いや対応の仕方について改めて学習し意識を高めている。	家族からのアドバイスをきっかけとして、言葉使いや対応についてロールプレイングが行われている。伝達の重要性も含め、あらためて認識を深める機会となった。生活習慣の継続やプライバシー空間としての居室、見守りの距離感等を意識し、個人の尊重と誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でのご本人の何気ない会話からご本人の思いや希望を引き出様に努めて、最終的に自己決定出来る様な環境作りを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、外出されたい方は散歩や買い物へ同行し、ご本人の意思を最優先日々支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々好きな服を選んで頂ける様に職員は声掛けを工夫している。選び事が困難な方にはご家族に助言を頂き配慮している。月に一度理容師が訪問し、ご本人のお好きな髪型にされている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方の好みの食事を献立に反映している。食事を作る際は食材を切ったり、得意な料理の味付けをしたり職員にアドバイスも頂き一緒にやっている。	入居者とともに買い物に出掛け、希望やバランス等に配慮された食事を提供している。包丁を持ち野菜を切ってもらったり、こだわりの味付け等に力を発揮してもらっている。医師の指示も受けながら、嗜好品の買い物にも出かけている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々食事摂取量を記録し水分が不足していないか職員間で情報共有している。嚥下状態に問題がある際には主治医に相談し、一人ひとりに応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い職員は口腔内の状態を細めに観察している。ご本には出来る範囲で口腔ケアをして頂いている。必要があれば訪問歯科に来て頂き個々にあったケアを提供している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表での個々に応じた排泄の誘導を行っている。排泄パターンが長い方には職員が声ご本人の意思を尊重した声掛けを行い自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表により、個別の状況の把握に努めている。カンファレンス等にて検討を行い、パターンやサインを共有しながら、丁寧な声かけに努めている。リハパンから布パンツへの移行も支援し、夜間は個別の状況に応じた支援を行っている。便秘予防も意識し、焼き芋器を用いて風味豊かな焼き芋を提供している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細めな水分補給や献立には食物繊維が豊富な食材を使用している。適宜、牛乳やヨーグルトを提供している。便秘になった場合は主治医に相談を行い便秘の改善に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	まずはご本人の意思を確認し入りたいときの希望をお聞きしている。入浴を楽しんで頂ける様に入浴剤を使用したりお好きな音楽を流したりして柔軟に対応している。	毎日入浴準備を行い、希望や体調、状況等に応じて柔軟に対応している。一番風呂を好む方や、音楽を流しカラオケの練習をする方等、個別の希望に対応し、入浴を楽しめるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人の希望や倦怠感ある方は自室で休憩して頂いている。夜間は照明、室温、物音、布団の調整に気を付けて良眠して頂ける様な環境作りに努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はお薬の説明書や周知ノートを活用し一人ひとりが飲まれているお薬の内容を把握しようと努めている。また、誤薬等の事故が起こらない様に与薬時は職員間で必ず確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた自室の掃除、食器洗い、洗濯物干し、食事の下ごしらえ等を行っている。カルタ取り、トランプの七並べ等を通して入居者の方同士で交流を図り笑いの絶えない環境作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム前の公園の散歩や小学校傍の川まで鯉を眺めに散歩へ行かれている。御希望があれば近くのコンビニまで嗜好品を買いに行かれたり、ご家族と一緒にカラオケに行かれる機会もあり日頃から外出支援に努めている。	スーパーで食材を選んでもらったり、日課である愛犬の散歩や法人本部での畑作り、家族と毎週ドライブに出かける方等、日常的に外出を支援している。暑さ寒さを感じながら、ホーム前の公園や近隣の川沿いの散歩コースは定番となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にお金をお預かりしている。御家族了承のもと、少額の金額をご自身で管理している方もいらっしゃる。ご希望があれば買い物へ行かれる際にお小遣いで購入する機会もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望があればいつでも電話出来る体制にあり御家族に近況報告を行いやりとりの中で笑顔が見られている。年賀状等を出来る範囲で書いて頂き支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の希望を配慮した上でテーブルや自席の位置を工夫している。すぐに外の景色が眺めやすい様に窓が設置しており、いつでも公園の様子やホームの通りの様子を眺める事が出来て居心地よく過ごせるように努めている。	共用空間は木の風合いが多用され、昔ながらの日本家屋を思わせる、どこか懐かしい雰囲気となっている。キッチンからは調理の様子が伝わり、生活感がある。食卓や畳スペース等、その時々に応じたくつろぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格や思いを考慮した上で職員間でテーブルの位置等を工夫している。また、気分や体調に合わせ気の合われた者同士思い思いに過ごして頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用されていた馴染みの物を持参して頂き、日々の生活が居心地が良い生活が送れる様に努めている。	冷蔵庫やテレビが持ち込まれ、家族との団欒を楽しむためのテーブルセットが設置されている居室もある。仏壇や聖像が置かれ信仰の継続を支援したり、馴染みの物の持ち込みも多く、生活感ある居室が多い。掃除にも力を発揮してもらいながら、暮らしの営みの継続を支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、トイレ内、脱衣場等、安全かつ自立を目的した手すりを設け、入居者の状態に応じて見守りを行い、出来る限りご自分の力で行って頂けるように対応している。		